

# 母なる 宇宙とともに

塩川香世

## II

### 自分の原点を知る! 自分の源を知る!

それが今、宇宙という波動の世界に心に向けていくことで、自分の心で感じ、そして、それが信じられるまでに至ったということだと思います。

### 「私達は、永遠の過去から永遠の未来へと続く中に 存在している意識、エネルギーである」

ということを、まず、今世を皮切りに、そしてこれからさらに、そのことを知っていく過程にあります。その過程において、宇宙というものが、大きく関わってくることを、ここにお伝えしたいと思います。

母なる宇宙とともに  
Ⅱ

本書は、「母なる宇宙とともにⅠ」の続編となります。

Ⅰで書かせていただきました通り、私達にこれから宇宙というものが、深く関わってきます。

宇宙は、非日常的なものではありません。

これから、私達に深く関わってくる宇宙という世界を、一緒に思ってみませんか。いいえ、ぜひ一緒に思いを向けていていただきたいと思います。あなたが、宇宙という言葉から連想していることと、宇宙という世界から伝わってくることとの違いを、あなた自身の心で受け取っていただきたいのです。

本書で綴られている内容は、色々な文献をひもといて、そして、そういうものを参考にして、私自身の思いを述べるといったものではありません。

ません。また、私は、人生という言葉を用いて、文章表現をしています  
が、人生いかに生きるべきかなどということ論じるつもりはありません。  
処世術など述べても仕方がないと思っていますからです。

分かってはいるけれどやめられないというのが、愚かな肉、形を纏まとっ  
ている人間です。その根本を根こそぎ変えていくための術すべについて、  
私自身が感じていることを、記しています。

しかし、賛同される方の意識の世界にも、そうでない方の意識の世界  
にも、肉の頭では計り知れない、何らかの衝撃を与えていくことができ  
ると思っています。綴られている内容を、本当にご自身の心でお分か  
りになられることの難しさを感じつつも、衝撃を与えていくというこ  
とで、本書を発刊させていただいた効果は充分だと考えています。

## はじめに

宇宙というのは、一言で言えば、波動の世界のことです。波動は、すなわちエネルギーです。エネルギーは仕事をします。真実の世界から流れる波動、すなわちエネルギーが起こす仕事とは何か、それは「すべての意識達よ、目覚めなさい」という呼びかけ、揺さぶりです。

私達人類は、エネルギーです。エネルギーが肉という形を持って、この地球上に生存してまいりました。そのエネルギーはどこから来るのか、その源とは何なのか、それを知るために、本当に数え切れ

ない転生を繰り返してきたのです。

「自分の原点を知る。」

「自分の源を知る。」

それが今、宇宙という波動の世界に心に向けていくことで、自分の心で感じ、そして、それが信じられるまでに至ったということだと思っています。

「私達は、永遠の過去から永遠の未来へと続く中に存在している意識、エネルギーである。」

ということを、まず、今世を皮切りに、そして、これからさらに、そのことを知っていく過程にあります。その過程において、宇宙というものが、大きく関わってくることを、ここにお伝えしたいと思います。

います。

いよいよ、そして、さらにこの地球上に展開していく「天変地異の流れ」です。私は、嬉しくて、嬉しくて仕方ありません。なぜならば、私達が、自らの間違いに気付いていくことができるように、自らを誘なぐさっていることを感じるからです。それは、自分達が「愛」そのものであることを物語っている動かぬ証拠です。私達自身が「愛」だからこそ、自らを誘導していくことができるのです。

私達は、過去からずっと、「母の心、母の温もり」を、心の中から葬ほうむり去ってきました。しかし、それは厳然げんぜんとして存在していたことを、自らの体験により気付いていく、そのような壮大な計画が用意されています。

ひとつの肉を持てば、そこに様々な人生のドラマがあります。そうです、人生はドラマです。しかし、ドラマをドラマとして見ることができずに、そのドラマに感情移入して、結局は自分の人生の焦点をぼやかしてしまう結果となってきました。

ドラマはドラマであって、そのドラマに重点を置くのではなくて、ドラマを見ている自分の思い、心の世界を重視していくことが、人生の焦点でした。その焦点がひとつのポイントにしっかりと合ってくると、人生の本当の意味が分かり、人生は喜びであることも分かってきます。

天変地異もまた、人生のひとつのドラマです。壮大なドラマです。そのドラマから、何を見て取っていくのか、それをこれから、それ

それが学習していくことだろうと思います。

形の世界の中に留まっているところから、

「自分を解き放していきなさい。」

その呼びかけ、揺さぶりを、これから、あなた自身は、どのようにとらえていくでしょうか。

「自分を解き放していこう。」

あなたの心は、そのように、反応していくでしょうか。

呼びかけや揺さぶりは、何度も続いていくと思います。自分を自分で解き放していくまで、それぞれの地獄は続いていくでしょう。

地獄とはそういうことです。

従いまして、本書は、これから人類に目覚めを起こす「天変地異」

を中心に構成されています。

天変地異から流れる優しく力強い波動の世界を、どうぞ、感じて  
いってください。

ただし、「母の心、母の温もり」を忘れ去った心の世界では、天変  
地異は恐怖以外の何物でもありません。

「宇宙を呪い、宇宙を憎み、宇宙に狂ってきた地獄から、どうぞ、  
ご自分を解き放していってください」

と、心から思うばかりです。

## 《目次》

はじめに 4

① 幕開け 14

② 異次元より 17

③ 宇宙からのメッセージの最たるものは、天変地異です 26

④ 天変地異はエネルギーです 29

⑤ UFO 37

⑥ 宇宙はひとつです 45

⑦ 手立てはひとつ 51

⑧ ポイントを外した生き方 58

⑨ 人生は、自分の計画通りです 63

|      |                   |     |
|------|-------------------|-----|
| ⑩    | 目を閉じてごらんなさい       | 70  |
| ⑪    | 自分を生かすエネルギーの存在    | 75  |
| ⑫    | 田池留吉の宇宙は、母なる宇宙でした | 82  |
| ⑬    | 母なる宇宙に思いを向けて      | 97  |
| ⑭    | 母なる宇宙とともに         | 101 |
| ⑮    | 人類よ、気付きなさい、目覚めなさい | 108 |
| ⑯    | ともに歩みを            | 111 |
| 終わりに |                   | 116 |



母なる宇宙とともに  
Ⅱ

## ① 幕開け

人類の幕開けです。これから二五〇年に至る時間の中で、それを存分に感じていってください。

地球上に誕生し、そして、数々のドラマを繰り広げてきた意識達の目覚めを、私達宇宙は待ち続けてまいりました。

私達は、どれだけのすさまじいエネルギーを流し続けても、きつと必ず蘇り、目覚めてくることを約束してきましたのです。

約束してきたから、今、自分自身ここに肉体を持っています。肉という形を持って、自分の培ってきた意識の世界を知っていくこと

が、それぞれの至上命令でした。自分に課してきたものでした。

だから、自分を自分で裏切り続けてきた過去からの自分と、心で対面できた意識は、大変幸せだと思います。

そして、そのようなことが、これから、それぞれの心の世界、意識の世界の中で、如実に知っていくような流れがあります。

どんなに形の世界が本物だと叫び続けても、それは悉く崩れ去っていきます。一瞬のうちに、自分の目の前から、すべてのものが消え去っていくことを体験していくのです。

地球上のどこに逃げても、隠れても、天変地異の流れは、避けて通れないものです。地球という星そのものの存続も、危ういものになるかもしれません。そのような衝撃を、これから人類が受けてま

います。

今世を境にして、意識の流れがはつきりと形となって、顕在化していきます。

「確かに、真実に目覚めさせる流れというものが存在する。」

そのことが形として示されていくのでしょう。今世は、そういう意味において、人類の幕開けだと、私は思っています。

## ② 異次元より

形の世界を本物とする三次元の世界から、真実は何もお伝えすることはできません。

「意識が本物であり、自分の本質は意識、エネルギーである」とする次元より、語らせていただきます。

従って、あなたの頭、いわゆる頭脳では、到底理解できないことも、私は承知しています。承知しながら、伝えるべきことは、伝えなければならぬ、これもまた意識の流れの一端だと、私は思うからです。

さて、私は、本来「言葉はパワー」だと感じています。パワーには、プラスもあればマイナスもあります。私は、もちろんプラスのパワーを、言葉に乗せて流しています。

ただし、ここで発する言葉を、プラスのパワーとして、それぞれの心で感じていただくためには、まず、それぞれが「自分の心を見る」という基本を、しっかりと積み重ねていくことが必要です。

いたずらに言葉だけをとらえて、言葉遊びに終わらせてほしくな  
いと思います。ましてや、頭で理解しようとしても、絶対にできな  
いことを知ってください。

そのあたりの事情は、先に発刊された「意識の流れ―アルバートと  
ともに―」「ありがとう―意識の流れ姉妹編―」を、じっくりと読ん

でいかれることによって、理解が深まっていくと思いますので、その二冊をぜひ手に取り、本書と並行して、読み進めていかれることを、お勧めします。

今世、私は、自分の心の中で、確実な体験を経てきました。それは、私の肉、すなわち私の頭を通過させただけのものではなく、その衝撃は、しっかりと、自分の心がとらえています。

当然、ひとつひとつの言葉にパワーがあると思います。それは、確実な心の体験に裏打ちされたところから発する言葉だからです。

ただし、そのことを感じていただくためには、それ相当の準備が、お互いに必要ですということも、同時にお伝えしてきたつもりです。肉の次元で、言葉をとらえ、「そんなバカなことがあるはずがない」

と一蹴<sup>いっしゅう</sup>するならば、その心の中を、どうぞ、見ていってくださいと、何度も何度も繰り返して語ってまいりました。

実践するか、しないかは、それぞれの問題です。実践していつて、素直に心に向けていけば、ここでお伝えしていることなど、いとも簡単に心で領<sup>りやう</sup>けることばかりだと思います。

なぜならば、「私はあなた、あなたは私、ひとつの世界」が、本当に私達が存在している世界だからです。

どうぞ、これから、あなたがどのように存在していくのか、自分で決断していただくさい。しかし、その選択と決断は、すべて必ず、自分自身に返ってきます。返ってきた結果を、また潔く、ご自分で受け止めていただくさい。自分から逃げずに、責任を自分

以外に転嫁せずに、堂々と自分と向き合っていただください。それが人として本来あるべき道だと、私は思っています。

さて、私は、この今の肉だけが私ではないことを、自分の中で、感じています。今のこの肉は、大変大切な肉です。それは、自分自身が真実の自分と出会うために、どうしても肉というものが、必要だったからという意味において、大切な肉だと思っています。

肉を持たずでは、つまり、お母さんに産んでいただかなくては、どなたも真実の自分と出会うことはできません。まず、肉を持つこと、これが第一条件でした。私は、自分の今世を振り返り、自分の心を振り返り、そのことを痛感してまいりました。

確かに、三次元の世界からは、真実の世界は見えてこないのです

が、しかし、三次元という次元を通過することは、私達には必要なことでした。肉という形を持つことによつて、自分の培つてきた意識の世界、つまり、そのエネルギーを自分の中で確認することが、一番自分達には分かり易いことだったからです。

自分を知るために、この世的なことはありません。それらは、すべて、自分達が用意してきたことばかりです。私達は、たったひとつの真実の世界である「母なる宇宙」へ帰りたいために、全部自分達で予定してきたのです。そして、最終的な手段として、天変地異というエネルギーにより、自分達に目覚めを起こしていく計画を立ててきたのです。その底にある思いは、ただただひたすらに、

「真実の自分と出会いたい。」

「あの喜びの、そして、温もりの宇宙へ帰りたい。」

その思いだけでした。

思い出してください、その心を蘇らせてくださいと、私は、一定早く、このようにお伝えしているだけです。

人類は、これまで、それぞれの肉を纏<sup>まと</sup>い、それぞれが我一番の宇宙を、心に広げてきた結果、素直ということがどういことなのか、全く分からなくなりました。そこへ道徳や倫理や慣習、習慣、規律、規則、その他様々なもので、自分達を縛り付けて、殆ど自由の利かない状態の中にいます。

人としての幸せの道を大義名分にして、結局は自分達だけの幸せと繁栄を願い、追求してきたのです。それが、これまでの人類の歴史

史でした。

私達は、もともと自由です。しかし、財産と生命いのちを守るための法律によって、本来の人間としてのあり方は、大きく歪ゆがめられていることは、間違いない事実です。

そもそも、人と人が戦争をして、殺し合う世の中など、おかしいのです。正義を掲げて、どうして人を殺すことなどできるのでしょうか。しかし、現実には、正義の名のもとに人殺しが、平然と行われています。

では、その正義とはいったい何なのでしょう。結局、人類はみんな真実を見失ってしまった状態です。そのような状態の人類にとって、

「起死回生を促すものは、もう天変地異しかない。」

そのことは、これからたくさんの人々が、自分の体験を通して、また周りの状況から、それぞれが口にするのだと思います。

自分達の間違いの根本に、思いが届くためには、人類は、すべてを目の前から失っていくという過酷な場面に、遭遇する必要があるのでしょうか。

「すべてを失くしても、なお存在し続けるものがある。」

そのところに到達するまで、これから幾度となく、天変地異がこの地球上に起こってくるだろうと思います。

### ③ 宇宙からのメッセージの最たるものは、

#### 天変地異です

天変地異という流れは、決して避けて通れないものです。

それは、母なる宇宙の波動に触れた意識の目覚めがあったからです。

天変地異は、私達の中の宇宙が起こしていくものです。私達の中が目覚めていけばいくほど、その呼び声は力強いものになってきます。目覚めは喜びです。宇宙が喜びの渦の中で、今か今かのゴーサインを待っています。

その喜びが、どの程度のものであるかという一例に、地軸の傾きを変えていくほどのエネルギーと表現できるかもしれません。それは、人智の及ぶ範囲を逸脱いつだつしています。何もかもすべてを捨てて、自分に委ねていくしかありません。

もちろん、自分に委ねていくといっても、今の形ある自分に委ねていくことではありません。そのようなことができるはずはないのです。肉は愚かだからです。また、肉の形は、いずれ消えていくのです。消え去っていくものに委ねることはできません。そうではなくて、消え去る形から思いを離し、自分は厳然げんぜんとして存在していることを心で知った時に、委ねていくことができる自分というものが、大きく自分の中に広がっていきます。すなわち、その広がり

中に、天変地異もまた同化していくのではないでしょうか。すべてがひとつとなって、次元移行をしていく瞬間だと思います。宇宙とともに、喜びとともに、そして、天変地異とともに次元移行をしていきます。

#### ④ 天変地異はエネルギーです

一般的には、天変地異というのは、自然災害と考えられています。地震、台風、ハリケーン、洪水、津波、干ばつ、大雪、竜巻、等々、みんな私達の生活を脅かすものです。生活空間を奪い、人の命を奪い、不自由な生活を強いられます。私達にとっては、何一ついいことはありません。

また、特に最近、記録的な豪雨や積雪、猛暑や、これまでに経験したことがないと口走るような自然現象が、日本の国においても起こってきています。しかし、それが何を示しているのだろうかど、

氣に留<sup>と</sup>める人は少ないと思います。地震にしても、頻繁に起こってくる、少々の揺れでは、あまり騒ぎ立てません。また、今日もどこかで地震が起こっているという程度に留めてしまえます。

「記録的な数字」「考えられないことが起きる」「頻繁に起きる」それらはみんなある一定の方向を、私達に示しているのです。それらは、これから起こってくる天変地異の前触れだと、私達に示しているのだと思います。

天変地異は、これからです。日本でも世界各地においても、その兆<sup>きざし</sup>はすでに現れてきていますが、それは文字通り、「兆<sup>きざし</sup>」であり、天変地異のエネルギーは、その程度のものではありません。

さて、そこで問題となるのは、

「天変地異のエネルギーをどのように感じていくか。」

ということだと思います。前述した通り、天変地異は私達から、財産と生命いのちを奪っていくものです。情け容赦なく、奪い取ってしまいう天変地異を、どのように心は受け止めていくのでしょうか。真実を知らない人（意識）は、やはり天変地異を呪っていくでしょう。天を呪い、神を呪い、あるいは神の怒りに触れたと恐れおののいていくのだと思います。

実際、そのようにして、これまでに私達は、何度も繰り返し、生命いのちを落としてきました。愛する家族も失ってきました。

形の世界を本物とするところから、どうして「天変地異は愛」なことかと思えるでしょうか。願わくは、天変地異などに遭遇することな

く、我が一生を平穩無事に過ごしていきたいと、誰しもが思っているはずです。いくら、「天変地異は愛」と聞かされても、本音は、「天変地異に遭遇したくない」ということだと思います。

ところで、日本の国においても、様々な天変地異を想定して、色々な分野で研究は進められているし、過去のデータをもとにして、あらゆる準備はなされているはずです。もちろん、地域ごとの防災訓練も怠ることはないでしょう。

そして、どこかに災害が発生すれば、自衛隊もボランティア団体も駆けつけて、復旧に力を尽くしていますし、全国各地から、義援金や物資が届けられます。もちろん、電気やガス、水道、道路の生活ラインの復旧もできるだけ速やかに行われていきます。その

他、励ましの電話やメールもあるでしょうし、災害後の心のケアと  
いうことについても、専門家達の協力があると思います。

そのようにして、まだ今は、人間にできることがあって、時間  
かかるけれど、やがて、ほぼ元の状態に戻っていくことができる程  
度です。しかし、そのような状態が、次から次へと、短い時間の中  
で、あちらでもこちらでも起こっていけば、どうなるのでしょうか。  
救援を待っていても、なかなか思うようには来てくれないかもしれ  
ません。そのうちに、第二次、第三次被害が起こって、なす術すべもな  
く見殺しにしていく状態に追い込まれるかもしれません。もっと早  
くに救援の手が届いていたらという場合も、往々にして起こって  
くと思います。また、ある地域、広範囲の地域が壊滅状態になっ

一瞬のうちに死の町と化していく場合もあると思います。

確かに、日本の国は、戦後の悲惨な状況から見事に復興してきました。今、経済格差云々と騒がれていたり、諸々の問題課題は山積していますが、一応は平和な時間を共有しています。しかし、果たして、これから起こってくる天変地異により、この国の運命はいかなるものとなっていくのでしょうか。戦後の廃墟から蘇ったように、これから、天変地異に幾度となく見舞われていく日本の国の再生はあるのでしょうか。

大変厳しいです。しかし、その中においても、なお生き残った人達は、何とか生きていかなければなりません。何もかも一気に失った状態で、心はもちろんズタズタです。何をどのようにしていけば

いいのか、まさに、自分の地獄を、肉を持ちながら見ていくことになるでしょう。悠長な心のケアなどで、ズタズタになった心の回復はできるはずがないのです。

人間は、極限状態にまで自分を追い込んでいかない限り、自分と向き合うことはしません。自分と向き合うことをせずに、神や仏や、宇宙のパワーなどと言って、エネルギーを自分の外に求めてきた愚かさを、極限状態の中で知っていくのでしょう。それが、天変地異と遭遇していくシナリオを、自分で書いた経緯（いきさつ）です。そうです、天変地異と遭遇するシナリオは、自分で書いたものなのです。従って、天を呪い、神を恨んでも、どうなるものでもありません。

自分で書いたシナリオを自分で演じていく、すなわち自作自演の

舞台を通して、自分にメッセージを送ります。

「喜びに帰ろう。」

「温もりに帰ろう。」

そして、

「母なる宇宙に帰ってきなさい。」

という本当の自分からのメッセージを受け取っていきます。

偽物の自分にとっては、何一ついいことがない天変地異も、本当の自分と出会っていくために、必要な現象です。

天変地異から流れるエネルギーは、自分を目覚めさせる愛のエネルギーだと言えるのです。

## ⑤ UFO

人類は、これから未曾有<sup>みぞう</sup>の体験をしていきますが、そのことについて、UFOという存在も大きく関わってきます。

UFOについては、今の時点では、一部のSFファンか、そのあたりの人達の中においては、関心があると思いますが、広く一般には、まだまだ映画か小説の世界のここのように考えられています。しかし、UFOは実在することを、ここでしっかりと語らせていただきます。

ただし、「UFO＝宇宙人」という意味ではありません。「UFO

「宇宙人」という発想は、文字通り、映画や小説の世界の話です。ここで言うUFOとは、そうではありません。宇宙人という発想からは、私達がお伝えしようとしているUFOは、間違つてとらえられてしまうでしょう。だから、UFOが地球人を連れ去るとか、地球に攻撃してくるとか、あるいは逆に友好的な関係を求めてくるのか、それぞれの憶測の中で、想像の世界を膨らませているだけ、いたずらに興味をそそっていく傾向にあるのだと思います。

UFOとは、紛れもなく波動の世界のことです。形はありません。人類のように形を持っているわけではありません。

しかし、そのUFO達が、つまり、宇宙にさまよい続けている意識達が、これから人類の心に通信してきます。

ところで、今までもそのような波動というか、通信を受けて、宇宙からのメッセージであるとか、宇宙と交信しているとか、そのような類の話は聞かれた人もあると思います。しかし、果たして、そこでは、その通信や交信を波動として、とらえていたかどうかは、疑問です。

内容は、興味をそそるようなものであるかもしれませんが、その波動は、恐怖心を煽り立てるようなものだったり、あるいは、宇宙からのパワーに従えという我一番の波動だったりするかもしれません。

そのような波動の世界は、思いを向けていった人の心の中に「宇宙は偉大なるもの、宇宙のパワーこそ素晴らしい」といった宇宙に

ひれ伏す思いを、どんどん膨らませていきます。特に、自分の心  
を見ることを知らない人が、UFOに思いを向けていけば、殆ど<sup>ほとんど</sup>の  
人がその中に、はまっていつてしまいます。そして、宇宙のパワー  
にひれ伏しながら、己を表していくのです。なぜならば、自分の中  
に、我一番の宇宙がすでにあつて、そのこととぴつたりと合致して  
いくからです。そして、「私が心に受けている宇宙は、まさに神で  
ある」という思いが、その肉を使つていきます。その波動は、まさ  
しくブラックパワーでしょう。そこには母の波動である温もりと優  
しさ、安らぎが感じられないからです。しかし、その中にはまり込  
んでしまえば、そのことがなかなか分らないと思います。

だから、宇宙のパワーを求めてきた人は大変です。その呪縛から、

自分を解き放していくことは、並大抵ではありません。大抵、顕示欲が強いのです。UFOを自分を表していく手段にしていこうとする思いが、根底に流れています。

そして、顕示欲が強ければ、UFOが語ってくるといっても、UFOの本当の思いを感じていくことはできないと思います。UFOを受け入れていこうとする優しさよりも、UFOのことが知りたいという思いが強いからです。それでは、UFOの心と通じ合うことはできません。

心に受け入れることを拒否しながら、UFOと交信していきたいとすることが、どういうことなのか分かりますか。それは、自分に對して冷たいのです。それが分かりますか。ここが、最も重要なポ

イントだと思っています。

宇宙にさまようU F O達の意識は、みんな自分自身の心と通じています。しかし、その自覚がない人が多いのです。そのことをおさなりにして、宇宙に、そして、U F Oに思いを向けていけば、どういうふうになっていくかは歴然としています。受け入れを拒みながら、ただ欲で、あるいは興味本位で思いを向けていけば、自分自身が狂うだけです。それはU F Oが狂わせたのではなくて、狂う要素が自分の中に、すでにあつた、つまり、自分に優しくないと<sup>あかし</sup>いう証です。

このように、母の波動を心に復活しないまま、思いを向けていくことは、大変危険なことです。しかし、宇宙にさまよう意識達は、

受け入れてくれることを待っています。だから、これから、人類の心に、交信が頻繁に行われるだろうと思います。

UFOは、非日常のものではなく、私達の生活の中に、日常化してくると思います。自分の心が受け入れるだけの準備をきちんとしていなければ、苦しいだけです。思いを向ければ向けるほど、苦しくてたまらないでしょう。そういう意味において、これからの時代は、ますます訳の分からない事態が勃発<sup>ぼっぱつ</sup>していきます。奇怪な行動を起こす人が、出てくると思います。その原因説明は無理です。もつとも、UFOの心を聞いてあげられる優しさがあれば、話は別ですが……。

再度、確認しておきます。UFOには、形はありません。波動、

思い、エネルギーです。

## ⑥ 宇宙はひとつです

私達は、それぞれに、自分の中に、宇宙を作ってまいりました。自分独自の法を自分の中で作り、それに基づいて存在してきました。法だから、全ての点において、自分は正しいのです。何よりも自分の法が優先されていきます。ひとつの小さな家庭においても、また地域社会においても、そして、広くは民族、国家間においても、それぞれの法を盾にして、それぞれが自己の立場を主張していきます。それで、利害が一致している時は、物事は丸く収まっているようですが、ひとたびその均衡が崩れれば、戦いが起こります。当然で

す。両者は融和しているのではなく、互いに駆け引きの中にあるからです。そして、それぞれの法に則り、時には、相手を完膚なきまでに攻撃していく場合もあります。

私達は、そのようなことを、長い時間の中で繰り返してまいりました。長い時間を経てきましたから、宇宙はひとつだと伝えられても、にわかにそのことを信じることなどできなかったというのが、本当のところでした。それどころか、私の宇宙は素晴らしいと、どれだけ抵抗してきたとか、自分が培ってきた世界を崩していくことに対して、徹底抗戦していく構えで、みんな肉をもらってくることを、私は、今世初めて心から知りました。そして、自分自身の思いの根底を崩すことなくして、本当の宇宙は分からないことを知り

ました。しかし、そういうことが、全く分からなかった私達ですから、苦しみ、狂い続けてきたのも当たり前のことでした。

もつとも、まだ、今の段階では、自分独自の法を作ってきたことや、徹底抗戦している自分にさえも、全く気付けずに、相変わらず我一番の宇宙を広げ、闇のエネルギーを垂れ流しているというのが、殆ど<sup>ほとんど</sup>の人達の実情です。

確かに、人々は、我一番の意識の背景を抱えながら、日々の生活を過ごしています。戦いのエネルギーを、しっかりと心に蓄えながら存在しています。そして、自分の心を見ることをしないで、目の前の形の世界が本物だと思い、その世界で幸せを求め、繁栄を願っている状態です。

また、人は、波乱に富んだ一生であつたとか、平々凡々な一生であつたけれども幸せだったとか、そういうことは話題にするけれども、本当はその程度では、それぞれの人生の背景にまで、思いが届いていません。いえ、それぞれの人生の背景にある宇宙にまで、思いはなかなか届かないと、表現したほうが適切かもしれません。

では、人生の背景にある宇宙とは何でしょうか。それは、あなた自身の意識の世界のことです。背景にある宇宙、つまり、自分自身の意識の世界が分からなければ、どのような人生であろうとも、本当は一樣にして失敗なのだと、私は思っています。しかし、それぞれが、自分の人生が失敗だったと認めることは、決して容易なことではないはずです。それは、自分を否定することになるからです。

しかし、背景にある意識の世界が変わってこそ、生まれてきた意義があるのです。

意識の世界が変わるとは、「私達、宇宙はひとつでした」ということに、目覚めていくことを意味します。

このようにお伝えしましても、「我一番の宇宙」とか、「闇」とかの表現もそうですが、今はまだまだ、一般的ではありません。背景にある宇宙と、自分の今の生活とどう結びついてくるのかと、一笑に付されてしまうでしょう。

しかし、私は声を大にして、

「私達は宇宙でした。」

「私達の宇宙はひとつでした。」

とお伝えします。そして、その宇宙の中に、私達は、ずっと生かされて、受け入れられていたことを、これからも伝え続けます。それが私の喜びです。たくさん意識達が集ってきます。苦しみ喘ぎながらも、真実の世界に触れたいという必死の思いに応えるべく、存在し続けていくことが、どれだけの喜びであるのかは、私自身、今世の肉を通して知るに至ったからです。

## ⑦ 手立てはひとつ

人類には、

「自分を自分で救う。」

「自分に本当のことを伝える。」

その手立てしか残されていません。

自分で自分を救えない人々（意識）は、永遠に地獄です。救えないというのは、自分に本当のことが伝えられない状態を言います。

自分の本当の姿が分からない、自分が何者なのかが分からないから、自分に本当のことが伝えられないのです。

肉を纏まとっている間、どんなに栄耀栄華を極めようとも、自分が何者かが分からない状態では、その人は、現に地獄にいるのです。肉というものを持っているから、そして、その世界に酔いしれているから、自分自身は麻痺した状態なのです。肉を外はずした時、その麻痺状態も薄くなっていくので、はっきりと自分の今いる場を感じてきます。肉を持っている間は鈍感な心も、死んでしまえば、たちまち敏感になっていきます。そうすれば、一気に重苦しさが自分自身を覆い尽くす結果となって、もう身動き一つとれない固まった状態になっていきます。ただ苦しくて、がんじがらめの自分自身がたたくさ  
んあって、その中でもがき苦しんでいる自分の姿を、はっきりと知  
るのです。それが紛まぎれもなく、自分自身だったことを感じます。真

実を見失った意識は、そのような状態です。

自分を救うことをしなければ、生きても地獄、死んでも地獄です。ただ肉を持っているか、持っていないかの違いだけです。そして、悲しいことに、肉を持つことによって、その苦しい心を紛<sup>まぎ</sup>らわせていく手段は、山ほどあるのです。だから、殆<sup>ほとん</sup>どの人が、肉を持っている間、自分の本当の苦しみなど分かるはずがないのです。現に、自分が苦しいと訴えている人でさえ、本当の苦しみに出会っている人は稀<sup>まれ</sup>です。なぜならば、殆<sup>ほとん</sup>どの人が、自分の心を見ることを知らないからです。ただ、苦しい、苦しいと助けを求めているか、そこから逃げようとするばかりです。その状態から助けを求めようともし、どこかへ逃げ込もうとしても、どうなるものでもないことが、全く

分らないのです。

私には、恐怖心を煽<sup>あお</sup>り立てるような思いはありません。きちんと自分の心を見ていけば、そういう状態の自分自身であつたことが、鮮明に心に浮かび上がってきて、だからこそ、今、肉がある間というのが、自分自身にとって、どれほどありがたいことなのか、お母さんに産んでいただいたことが、どれだけの愛であつたのか、そのようなことが、心にどんどん響いてくるはずです。はつきりと、自分の成すべきことが見えてきます。苦しんできたのは、紛<sup>まぎ</sup>れもなく自分自身であり、その自分が、今、救いを求めていることを感じます。その声は、日ごとに大きくなっていくでしょう。

しかし、バカな肉は、相変わらずに、肉の幸せと喜びに奔走<sup>ほんそう</sup>する

毎日を送り続け、そして、やがて自分の死を迎えるのです。その周期がこれから、少しずつ短くなっていくと思います。自らに警笛を鳴らし続け、内外から、天変地異を呼び起こしていくのだと思います。それほどの切羽詰った状態です。実は、もう限界ぎりぎりのところですよ。その切迫した思い、心配を、まだあなたは感じられないでしょうか。

しかし、何も焦ることはありません。浮き足立つこともありません。ゆったりとして、淡々として、自分の心を見ることだけは、日々怠らずに続けていけば、いざという時も、そして、これから起こってくる様々な現象も、真正面から受け止めていけるのではないのでしょうか。

自分にとって、自分を見失うことが、一番大変で、一番苦しいことです。もつとも、殆ど<sup>ほとんど</sup>の人は、自分を見失うどころか、自分というものを全く知らない状態です。そのような状態で、ある日突然、天変地異の波を、もろにかぶつていけば、どうなるのでしょうか。おそらく、その波の渦の中に飲み込まれて、肉の命は言うまでもなく、自分自身の意識の世界もまた、これまでと同じように、渦の彼方に遠く飲み込まれていくでしょう。これからは、その瞬間に、心の針を合わす勉強をされる人も出てくると思いますが、いずれにしても、「自分で自分を救う」、そして、「自分に本当のことを伝える」チャンスは、すべてに公平に用意されてきましたし、これからも、もちろん、そうなのです。

いつ、そのチャンスを活かすことができるのか、あるいは、永遠に地獄の奥底で苦しみ続けていくのか、その選択を自分でしなさいというのが、本当の世界の真実であると、私は伝えます。

## ⑧ ポイントを外はずした生き方

どのようなことについても、押さえておくべき重要な点、つまり、ポイントというものがあります。

枝葉えだはの部分については、ポイントをしつかりと押さえている限りにおいて、大勢に影響はなしということで、いくら柔軟に対応できます。

ただし、どれが枝葉えだはであつて、どれがそうでないのかという見極めは、真実を知る目を自分の中で養う以外には、困難なことだと思われます。

人と人が争わずに、みんな仲良く健やかに暮らしていく最低限のラインでさえ、なぜ私達はクリアできずにきたのか、その説明のために、私達は、それぞれの肉や肉の環境を選んできます。その中で、それぞれ戦いのエネルギー中にいることを、知っていくのです。

戦いのエネルギーを秘めたままでは、仲良く健やかに暮らすことは無理ですし、どんなに世界平和を唱えたところで、本当の平和はやってこないことは明白だと、苦しみの中で気付いていく運びとなっているのだと思います。だから、人生など、最初は、苦しんで当然、悩んで当然なのです。

それを、さらにはつきりと証明するのが、これからの私達自身であると、私は思っています。私達がその証人<sup>あかしびと</sup>となっていくのです。

度重なる天変地異を経て、必ず、そのようになっていきます。

そうなっていった時に、全くポイントの外<sup>はず</sup>れた生き方をしてきた自分達でしたと、心から、自分自身に詫<sup>わ</sup>びていくのだと思います。極端に言えば、生きるために何でもしていく、そのような墮落したものに成り果ててしまったのが、肉を持つ人間の姿なのではないでしょうか。

愛する人のために、世界平和のためにと、大そうな表現をして、いったいどれだけのエネルギーを、宇宙に垂れ流してきたのか、全く自覚のないまま、これまで存在してきた私達でしたと、私は感じています。

自分自身がエネルギーであるという自覚もなく、当然、「何のた

めに生まれてくるのか」、あるいは、「なぜ肉という形を持つてくるのか」、そのような問題点には触れようともせず、日々の生活をより快適に過ごしていくことばかりに、思いを集中させていくことは、それ自体、ポイントを外した生き方ではないでしょうかと、私は問にかけています。

さらに、地球人類は、あまりにも驕り高ぶっているとも思っています。地球征服をもくろんできた人類は、その食指を宇宙空間にまで伸ばしています。人類の叡智の粹を集め、そして、莫大な費用をつぎ込んで、宇宙を征服しようとするエネルギーが、シャトルという形となって、宇宙空間へ飛び立っていきます。それが、どれだけ地球人類に恵みをもたらすのでしょうか。

この地球上では飽き足らずに、宇宙空間までも巻き込んで、戦いのエネルギーを撒き散らしていかうとする人類に、やがて返ってくるものがあります。己の愚劣さをまじまじと感じていく時が、そう遠からずにやってくることを、私は感じています。

すべては、ポイントを外して存在してきた私達が受けていくことです。それをチャンスに、不死鳥の如く蘇っていくことができることを、信じたいと思っています。

## ⑨ 人生は、自分の計画通りです

人生は、自分で立案して、自ら構想を練ったものです。その中に、自分に伝えたいメッセージを織り込んでいきます。

「本当の自分のために生きなさい。」

修飾部分を、全部取り去ってしまえば、そのメッセージが浮かび上がってきます。

「ああ、そうだったのか。そう思えば、あれもこれも、辻褄が合ってくる。」

自分の来し方を振り返り、そう感じる人も、これから多く出てく

ると思います。

その一方で、「私は、自分にこのようなシナリオを書くはずがない」と、どうしても、納得できない人もまだまだ多いでしょう。それは、「なぜ、苦しみ多い人生を、自ら選んでいくのか。自分で立案して、自ら構想を練るならば、もっと楽なものにするはずだ」ということなのだと思います。

何を喜びとして、何に幸せを感じるかによつて、それぞれの人生も、とらえ方は分かれていきます。さらに言えば、自分を肉として見るか、意識の自分を中心にとらえていくかで、それぞれの生きる方向が決定されていきます。

結局、「苦しみ多い人生とは何でしょうか。楽な人生とは、いつ

たい何でしょうか。そのすべてが、形を中心にとらえているのではないのでしょうか」ということだと思っています。

自分を意識、心、エネルギーとして見ていけば、人生の中で起こることすべてが、自分を知っていくチャンスであり、苦しみも楽しみも、みんな喜びとなっていくと思います。

ところで、天変地異も、自分で書いたシナリオだと伝えました。

天変地異とは、一般的には、自然災害を指しますが、「ある日突然」という意味からすれば、どなたの人生の中にも、天変地異のひとつ、ふたつは、配布されているかと思っています。

本当は、それは、ある日突然ではなくて、そして、寝耳に水でもなくて、きちんと計算されて、起こるべくして起こってくる出来事

なのでしょう。

どういう状況の中で、その出来事が引き出されていくのかは、私達の肉で推し量ることはできませんが、自分自身、その出来事によつて、何かを考え、何かに気付いていくことを予定していることは、確かなことだと言えると思います。

ただ、心を見る、自分の中に思いを向けることを知らない状態では、気がきが喜びであり、喜びであるからこそ、その喜びが自分を解き放していくまでには、到底至らないと思います。

「自分が作ってきたちっぽけな枠の中から、飛び出していく喜びを、心から味わっていきましょう。」

その願いを込めて、それぞれの人生を用意してきたのではないで

しょうか。

このことを理解するには、なかなか難しいとは思いますが、私自身は、「はい、その通りです」と答えます。

私は、ちっぽけな枠の中に押し込んできた自分自身に、申し訳なく思ってきました。肉として生きることが、本当に愚かだということを感じる一方で、自分で立案し、構想を練ってきた人生というシナリオを通して、意識の世界の緻密ちみつさを感じてきました。すごいなあと思わざるを得ませんでした。

自分が自分に与えた肉の時間を、どのようにして生きていくのが、最大のポイントだと思います。世間に流されて、無難に生きていく生き方が、自分が本当に切望してきた生き方なのでしょうか。

「逆流して生きよ」という意味ではなく、絶えず自分に戻って、自分の目線から、自分の存在、その他あらゆるものを見ていく姿勢が大事なのではないでしょうか。

その自分の目線というものを、肉を携えている時間の中で、試行錯誤をしながら育んでいくべきなのだと思います。だから、試行錯誤をする過程で、「ある日突然」の天変地異に遭遇して、その目線を変えるという計画が、それぞれにあるのだと思います。

目線を変えるということは、自分の人生観がガラリと変わることにつながっていきます。天変地異とは、それほどの衝撃を、自分にもたらすのです。

「ある日突然」の天変地異によって、自分は間違っていましたと心

から思えるから、天変地異なのです。気付きも何もないければ、形の上から見れば天変地異であっても、その人にとっては、実は天変地異になり得なかったということだと思います。

そして、その人の中に、今度こそ変わっていくという思いがあれば、再び、天変地異のシナリオを予定していきます。すべては、その人の意識の世界が計画していくものなのです。

## ⑩ 目を閉じてごらん下さい

何も思わずに、何も考えないで、目を閉じて時間を過ごすことができる喜びを知っていますか。

人間は、アンテナを張り巡らして、目が開いている間は、四六時中、情報を受け取るうとします。つまり、自分の心は、いつも外に向けられている状態です。それが、生きている証あかしなのかもしれませんが、心は忙しく動いています。

何かを思い、何かを考えて、そして、行動する習性を持っている人間に、「何も思わないで」「何も考えないで」は、案外難しいこと

かもしれません。いつも、何かを思い、何か段取りを考えてしまします。

「何も思わないで」「何も考えないで」は、一見生産性が低いように見受けられますが、自分の中で、意識の転回が着々と進んでいけば、目を閉じて、すなわち五官を閉じて、意識の世界に思いを向ける瞑想という作業は、何よりも生産性の高いことなのだと、感じていくことができると思います。

生産性が高いというのは、プラスに作用していくエネルギーを流すということです。

真実の方向に、しっかりと針を合わせ、思いを向けていけば、自分が培ってきたマイナスのエネルギーも、真実の世界からくるエネ

ルギーの中に、溶け合って、プラスに転じていきます。つまり、いながらにして、仕事をしていることになります。それは、かなり生産性が高いということになるかと思っています。

からだ  
身体も心も、クルクルと独楽鼠こまねずみのように動かして、いったいどれだけのものを生産してきたのか、また、どのような質のものを生産してきたのか、肉に生きてきた私達は、大いに反省を促されるべきだと思っています。

人間が、これまで築き上げてきたもの、有形、無形に関わらず、そのすべてを破壊し尽すエネルギーと出会って初めて、自分の目が覚めていくことだろうと思います。人間は、その時点で、本当の意味で何かを思い、何かを考えていくのではないのでしょうか。

その崩壊は、半端ではありません。ことごとく崩壊していきます。当然、小手先だけの、その場しのぎの対策などでは、どうしようもないと感じていくだろうと思います。

そして、やがて、何もできないことが、分かってくるのです。

何もできないというのは、肉の人間として、何もできないということです。肉そのものに、そのようなパワーがあるはずがないのです。肉を生かしているパワーが、そこに存在することを、知っていきます。そのパワーの存在に気付くために、形を持つてきただけだったと、自らの秘めたるパワーを、心で感じていくのだと思います。そのパワーの源は何か、それは、肉を外したところでは分からないことも、自然に分かってきます。

目を閉じてごらんなさい

目を閉じて、五官を閉じて、そして、本当の自分の存在に出会っていく、その過程を経ていくことが待ち望まれているのだと思います。

## ⑪ 自分を生かすエネルギーの存在

宗教的な表現に、「私達は生かされている、許されている」というものがあります。この学びの中においても、そういう表現がされてきました。しかし、何によって生かされているのか、許されているのかということは、その言葉を耳にする人の心の世界によって、全く違います。

私自身は、私は自分に生かされ、許されていると、心で解釈しています。自分を生かすエネルギーの存在を確認しています。つまり、「私」という存在を、肉の私は知っているのです。

私は消えても、「私」は消えないことを感じています。「私」はエネルギーだからです。そのエネルギーによって、私は生かされているし、許されています。また、私は「私」の仕事の妨げにならないように存在していくことを、喜びと感じていることも感じています。私の喜びは、「私」の喜び、私の幸せは、「私」の幸せだと、そのように感じられるのです。

私はひとりではありません。いつも、「私」とあります。そして、私の心の中の隅から隅まで、奥底まで、「私」は知ってくれています。どんなに無様な私でも、「私」は心から、私を歓迎してくれています。このようなパートナーは、他にありません。私は、自分の人生の時間の中で、数々のパートナーを求め、また組んできました。そし

て、そのすべてが、失敗に終わりました。どれだけの固い契りちぎを交わしても、結局は、互いに裏切っていくことを、数知れず体験してきたのです。もちろん、ここで言うパートナーとは、肉の人間だけではありません。宗教の世界で使われている、いわゆる神、仏、宇宙のパワーも含めて、数々のパートナーを、私の心は求めてまいりました。

ようやく、今世の時間の中で、私のパートナーは、唯一、「私」であるという結論を、自分の中で見出みいせたのです。

「私」とは、まさしく私を生かすエネルギーでした。そうです、私は、「私」だったのです。

ところで、あなたは、これまでに、「お母さんに産んでいただい

よかった」と本当に思ってこられましたか。また、自分を生かすエネルギーがあることを、日々の時間の中で、感じられたことがありますか。

あなた自身、自分を生かすエネルギーと出会うことができたなら、必ず、あなたの物の見方、考え方、価値基準は一変すると思います。ガラリと変わると思います。

もちろん、幸せの基準も喜びの基準も、変わってきます。

外からは、以前と何ら変わることはなくても、中は変わっています。いわゆる私の目と「私」の目で見える両方の世界を知っていくからです。

ある時期は、それが自分の中で混乱しますが、それもやがて、

「私」の目から見る世界が本当の世界だと、自然に心で理解できるので、混乱はほんの一時期です。

それから、どんどんどんどん、本当の世界が心の領域を占めていきます。私の中にあつた価値基準が、どんどんどんどん入れ替わっていくのです。

その作業を推し進めていく中において、私のパートナーは「私」であるとの結論に達すると思います。

「私」は、お母さんであり、アルバートであり、母なる宇宙であることを知っていきます。

本当の幸せと喜び、温もり、安らぎを知った心には、肉だけのそれらのものが、どれだけ安っぽくて薄っぺらなものなのか、はつき

りと感じられるのです。

肉は、人恋しさから人の温もりを求めています。

「心を癒してほしい、温もりに包まれない、優しい言葉をください、優しくしてください」と縋<sup>すが</sup>つていきます。

助けを、救いを、そして、パワーを求めています。

しかし、それらのすべてが間違いだと分かっています。

私が「私」を知らずに、存在してきた間違いを、「私」が私に、ずっと伝え続けてきてくれたことを思うにつけ、私は「私」に感謝しかありません。ありがたい言葉と思えないのです。

そして、私は「私」を裏切り続けても、「私」は私を裏切ることもなかった、見限ることもなかったことを、私は、田池留吉氏とい

う肉を通して知っていきました。その意味において、田池留吉氏の肉は、私にとつてなくてはならない存在でしたと、「私」が私に伝えてくれました。

## ⑫ 田池留吉の宇宙は、母なる宇宙でした

ここからは、僭越せんえつながら、私自身が心で感じている田池留吉の宇宙について、今現在の時点で語らせていただきたいと思います。もちろん、そのすべてを心でとらえているということではありませんが、しかし、私は田池留吉の宇宙、つまり、母なる宇宙を、心でとらえているという点につきましては、間違いはないと思っています。

ところで、田池留吉の宇宙を語ろうとすれば、話は、やはり、自分自身が培ってきたブラックの宇宙から、入っていかなければならないでしょう。そこで、これまでに、セミナーの中で行われてきた、

いわゆる「闇出し現象」に、少し言及させていただきます。

私も、ご多分に漏れずに、アマテラスの宇宙、そして、それ以上の宇宙というものを、心に培ってまいりました。培ってきたエネルギーは、本当に大きなものです。しかし、それは、意識の流れから逸脱いつだつしていましたから、すべてがブラックパワーでした。そのことに自ら気付くために、今の肉を持たせていただいたことは、私はすでに自分の中で確認済みです。

「母なる宇宙とともに I」の冒頭に掲げました通り、私は、田池留吉の宇宙に、真っ向から戦いを挑んできました。それが私のこれまでの意識の世界だったことを、私は、セミナーを通して、学んできました。

田池留吉の宇宙は、母なる宇宙でした

特に、今から遡さかのぼって、七、八年前より、自分の中の宇宙が、田池留吉という肉を通して広がっていく意識の世界に、猛反発していることを、はつきりと確認してきたのです。そして、その確認のために、また、自分の中の宇宙を変えていくために、私は、今世肉をいただいたことも、はつきりと知りました。もちろん、それは、「母なる宇宙、私のふるさと」へ帰ろうとする強い意志が私の中に息づいていたからでした。しかし、最初から、田池留吉氏から発せられる波動の世界が、私の待ち望んでいたものだど、私の中で、合致することは、難しいことでした。

母なる宇宙へ帰りたいとする私の強い思いと裏腹に、田池留吉の宇宙を認めることは、私にとって、やはり、容易なことではありません

せんでした。私は、アマテラス、いえ、それ以上の宇宙に君臨してきたと思ってきたからです。田池留吉の宇宙を認めるということは、自分の敗北に繋がっていくことは必至だと思ってきました。それは、戦って、戦って、戦い抜いて、勝利を収めたほうが、宇宙を我が物にしていくことを繰り返してきた意識の世界に、私自身ずっと存在してきたからです。私が過去存在してきた世界は、「目には目を、歯には歯を」の世界であり、力には力を持つて制する世界でした。それこそ、パワーがすべての世界でした。

そのような意識を背景にして、私は、今世、母に産んでいただきました。予定通りに、私は、肉を持って、田池留吉氏と出会えました。セミナー会場という絶好の場で、私達は出会いを持ちました。

田池留吉の宇宙は、母なる宇宙でした

中の思いは、おそらく喜び勇んでいたと思いますが、如何せん、肉を纏まとった私は、自分の肉の厚さに、時には閉口し、時には齒がゆい思いを出しながら、時を過ごしてきました。なかなか中の思いが、肉を突き破って、ストレートに出るということにはなりませんでした。肉の殻が厚いと落ち込んだ時もありましたが、そのうちに、「いや、違う、私自身、入念に準備を整えている」と、思えるようになったのです。中から、マグマのように噴き上がってくるエネルギーを、自分自身で受け止めるには、それ相当の準備が必要であることを、肉は知らずとも、中は知っていたのでしょう。その準備に必要な時間が、充分に用意されてきました。

やがて、ある時期より、私の中のエネルギーは、田池留吉氏を目

がけて、次から次へと飛び出していきました。ひとたび飛び出たエ  
ネルギーは、留まるところを知らないかのように、どんどん向かっ  
ていきました。どんなに、田池留吉氏の指一本で、ひっくり返ろう  
が、私は、「なにくそ」の思いで、怯むことなく、田池留吉氏に、戦  
いの刃を突き刺していきました。

ある時など、セミナー会場で、私の母が、やはり、田池留吉氏の  
指一本で、ひっくり返って起き上がることもままならない様子に、  
私は、思わず母に向かつて、叫んでいたそうです。

「お前、何やってるのか。何と情けない。何で手も足も出ない。」  
「あいつに、かかっていけ。」

あまりにも、不甲斐ない母の姿に、私は、苛立ちの思いを投げつ

けていたということを、後日、母から聞かされました。

そのような、セミナーの中での「闇出し現象」を経て、私は、自分が培ってきた世界を知っていきました。それと同時に、田池留吉氏の意識の世界も、段々と心で知っていくようになったのです。

最初、私は、田池留吉氏の意識も戦いのエネルギーで応戦してく  
ると思っていました。私は、そう思い込んでいました。ところが、  
そうではありませんでした。それどころか、つめを研ぎ、牙を剥き、  
相手を見据えて、罵詈雑言<sup>ばりぞうごん</sup>を吐いても、全く齒が立たないではあり  
ませんか。私には、それが悔しくて腹立たしくてたまりませんでし  
た。

「何で、どうして、こんな世界があるのか。」

「どうして戦ってこない、なぜ平然としている。」

「何で……、何で……、何で……。」

田池留吉氏という肉を通して感じるものに、自分の力が萎なえていく感覚を何度となく味わってきました。それは、自分自身が、何か大きなものに吸収されていつているような感じでした。包まれていると表現してもいいでしょう。まず、不思議でした。私は、戦いのエネルギーを剥むき出しにしているのに、何で、相手は応戦してこないのか、不思議でした。

それどころか、

「私はあなたを待っていました。ずっと待っていましたよ」

「あなたが、どんなに私に向かってこようと、私はあなたを愛し

ています」

との思いが返ってくるのです。

私には、そんなものは到底信じられないことでした。

「くそつたれ、お前の化けの皮をはいでやる。お前なんか大嫌いだ、お前を殺してやる、お前なんか、死にさらせ」

と、ありつたけの罵声を浴びせかけました。心からどんどんその思いが上がってきました。すごい目をしていたと思います。

それでも、田池留吉氏は、ただ黙って、しかし、その懐ふところから流れ出すものは、まさしく母の思いそのものだったことに、私は戸惑いを隠すことができませんでした。黙ったまま、突っ立っている田池留吉氏から響いてくる世界が、私の意識の世界奥深くに、どんどん

と伝わってくるのを何度も感じていました。そして、その思いが、厚かった肉の殻を、さらに突き破り、肉でない私の世界をずっと広げていきました。このようにして、肉を纏まといながら、肉を外はずした自分自身と向き合えば向き合うほど、田池留吉氏の世界が心に染み渡ってきました。

以上、昔懐かしさで、セミナーの現象の時間を一部、振り返りましたが、この辺で、また母なる宇宙へ話を戻します。

田池留吉の宇宙と、母なる宇宙が、ピタリと一致することを、ようやくくにして知っていった私の中が、段々と変化していることが分かりました。

まず、冷ややかで、すべてを見透かされていると思って、大嫌い

田池留吉の宇宙は、母なる宇宙でした

だった田池留吉氏の目を、真っ直ぐに見ることができるようになりました。見れば見るほど、万感胸に迫ってきました。

「ああ、私は、自分を否定してきました。自分を足蹴あしげにしてきました。」

母なる宇宙からの呼びかけに、自分自身が拒否していたに過ぎなかったことを知りました。懺悔ざんげでした。

「母なる宇宙に戻ってきなさい。」

「はい。」

心の世界での短いやり取りで、私の歩むべき道は、確実にその姿を現していったと思います。やっと、心から「はい」と言える私になっていきました。それは、理屈ではありませんでした。私は、母

の心、母の波動を本当に、この心を感じたからです。

宇宙、その心、その思い、そのエネルギー、それは、どれだけの間違いを自分自身繰り返してきたかを、はっきりと示してくれました。母なる宇宙への思い、そして、母なる宇宙からの思い、今世よりやくにして、自分の中で出会いを実現できたのです。出会いがあったから、私の中は、どんどん変わっていきました。肉というもののは、どんなに立派に取り繕っていても、肉は肉に過ぎないことが、鮮明に感じられ、肉や肉の生活とのお付き合いをどの程度にしているのか、自然に自分の中で、調節していくようになりました。こだわらない、つかまらない、入れ込まない、しかし、肉は肉として、それなりに楽しむ術<sup>すべ</sup>を心得るようになりました。形の世界には、私が

望んできた幸せも喜びも絶対にないことを、確認する日々でした。

そして、「人は、必ず帰っていく」ことも知りました。真実を見失ってしまった人類も、やがては自分の帰るべきところを、必ず自分で見つけ出すことを感じます。

確かに、今はまだ人類は愚劣ですが、その愚劣な姿を、容赦なく自分の目の前にさらけ出していくことを、人類は選んでいるのです。それは、自分の中に、本当の自分に帰ろうとする思いが現存しているからだ、私は思っています。

母なる宇宙というものは、まだ殆どほとんどの人の心には響いてこない波動の世界のことかもしれません。しかし、現に今、その波動の世界は実在することを、私は伝えています。本当の意識の世界に目覚め

た証<sup>あかし</sup>に、これからそれぞれの心に蓄えてきたエネルギーが、どんどんと噴き出してきて、それが忽ち<sup>たちま</sup>のうちに、形となって現れてきます。そういう形を通して、意識の目覚めが、それぞれの心に浸透していくのだと思います。

それが、いわゆる、意識の流れです。意識の流れがあるから、人類の心にある膿<sup>うみ</sup>が、具体的な形となって現れ、人類の心に戻していくのです。

これまで、人類は、その膿<sup>うみ</sup>が形となったものをどのように処理していくかに、頭を使ってきました。それでは、さらに濃厚な膿<sup>うみ</sup>を作り出すことにしかならないのです。そうではなくて、戻ってきた膿<sup>うみ</sup>そのものを、心で見つめていくことに、気が付いていくと思います。

もちろん、形を通して、心は、様々な衝撃を受けます。半狂乱になるとか、心が壊れてしまふとか、色々な表現はありますが、人間の心は、そのような柔<sup>やわ</sup>なものではありません。ガラス細工のような繊細な心の持ち主が、肉を持って生まれてくるはずがないのです。みんな、本当にすさまじいエネルギーを心に溜め込んできたことを、じっくりと知らなければならぬでしょう。

奇麗事では済まされません。心の中の濃<sup>うみ</sup>、闇の部分<sup>えぐ</sup>が、抉<sup>えぐ</sup>り出されていきます。母なる宇宙の波動が、そのように誘<sup>いざな</sup>っていくからです。

### ⑬ 母なる宇宙に思いを向けて

「今、宇宙を思えば嬉しいです。宇宙を思えば幸せです。お母さんの懐なつこを思い出しています。私はあの温もりの中に戻っていくことができるのだと感じています。どれだけの間違いを積み重ねてきても、私は温もりへ戻っていくことができます。温もりは私だからです。今、存在を許されていることを感じます。厳然げんぜんとしてある波動の世界を感じます。」

瞑想すれば、心に上がってくる思いです。

「愛」と「死」を見つめて、私の旅は始まりました。気の遠くなるような時間を心に積み重ねてきました。私には、そのことが心に強く響いてくるのです。どれだけ間違ってきたことか、どれだけ狂い続けてきたことか、それらは全部、心の記憶としてあります。

人の優しさや温もりも、もちろん知っています。時には、人の情にほだされることもあるでしょう。だからと言って、そこに留まるわけにはいかないのです。その心の奥底に眠る闇の部分に蓋をすることは、もうできません。闇の部分から目を背けることはできなくなってくるのです。

「本物の優しさと温もりに出会いたい。」

心の叫びが、時間を重ねていくうちに強く、強くなっていくから

です。意識の流れに誘われて必ずそうなっていくます。そして、上  
辺だけの優しさや温もりではなくて、本物の優しさと温もりに出会  
うには、地獄の釜の蓋を全開していく必要があることを知っていき  
ます。

みんな、その蓋を開くのを本当は待っています。待たずとも、自  
分で開いていけばいいのに、肉を持つと臆病になってしまいます。  
小さな世界に、自分を押し入れて、小さな世界で幸せを求めていく  
のです。何と悲しいことでしょうか。何と哀れなことでしょうか。

私達は、本来、広い、広いどこまでも広がっていく宇宙です。小  
さな世界にいては、無限に広がっていく宇宙を感じていくことは不  
可能です。地獄の釜の蓋を開けて、中に押し込んでいるエネルギー

を、みんな解き放していくことから始めなければなりません。

汚いものを詰め込んだ状態では、とても、本当の自分との出会いは不可能です。

「汚いものが表面化してくれば、都合が悪いですか。なぜ、そう思うのですか。いつまでも、清く正しく美しい自分の影を追うつもりでしょうか。」

自分に問いかけてみてください。偽物の自分も答えてくるでしょうが、本物の自分の思いも、その問いかけに反応してくるはずですよ。どちらの声に耳を傾け、心を向けていくか、それが、これからのそれぞれの人生を決定していくのだと思います。

## ⑭ 母なる宇宙とともに

私に、真実を伝えてくれた田池留吉氏は、その人生そのものがすべて、「真実をお伝えする」ということでした。

私もまた、真実の世界を知ること、自分の人生を懸けてきました。私の今世の時間は、真実の自分に目覚めるために、用意してきた時間だということを、はつきりと感じています。

真実の自分に目覚めるために、必要なものだけを、私自身選んできました。そして、二五〇年後の来世もまた、真実の自分をさらに深く知っていくために、肉とその環境を用意しています。

肉や肉の環境を、最大限に活かすことは、意識の私にとって最高の喜びとなります。私の喜びは、自分の中の宇宙の奥深くに突き進むことにあります。そのために、今、肉を持っているし、再び最終の肉を持つ段取りになっています。

しかし、私はこの世的な肉の喜びと幸せを望んでいないというわけではなく、今世も来世も、十二分に肉の喜びも幸せも、手中に収めることができるでしょう。ただ、私はもうその次元に留まらないだけです。手中に収めたからどうという特別な思いはないのです。

肉として不幸せで、不足不満の状態であれば、意識の世界の喜びなど、到底感じられるはずがありませんが、たとえば、肉で満ち足りている状態であっても、そのような肉の幸せや喜びなど、取るに足

らないものだと感じています。だから、もっとうなつてほしいとか、そのような思いは膨らんできません。意識の世界の幸せと喜びを知る心には、肉の幸せや喜びなどその比でもないし、今、感じている肉の喜びと幸せで、もう充分過ぎるほどだと伝わってくるからです。

所詮、肉の喜びと幸せは消えて無くなっていくものです。本当か嘘か、それを、これから、じっくりとそれぞれの心で味わっていただくさい。

さて、今、母なる宇宙へ、ともに心に向けてみましょう。

あなたの目を閉じて、ひとつ、ふたつ……、深く丹田呼吸を始め

てください。五官を閉じて、あなたの心が落ち着くまで、静かに息を吐き、息を吸ってください。

あなたの心に、今、あの懐かしいふるさとのメロディが聞こえてきませんか。優しい、優しい母の呼びかけです。

「あなたが戻ってくるのを、待っていますよ、いつまでもいつまでも、待っています。」

ふるさとのメロディとともに、あなたを誘<sup>いざな</sup>ってくれていることを信じていてください。

私には、心の底から、異語が聞こえてきます。異語は、私にとって懐かしい、とても懐かしい響きの波動の世界です。

私は、その異語のリズムに乗っています。心がどんどんどんどん

大きく広がっていくのを感じます。

「宇宙」、私はそう表現しました。私は、母なる宇宙の懐ふところにいることを感じます。ただただ嬉しいだけです。懐かしい、嬉しい、私は私のふるさと、宇宙を心を感じている、そのことが、今、私の心の中から、喜びとして、幸せとして、湧いて出てくるのです。

「私達の、今の肉は、いずれ消え去っていくものです。肉の自分、肉の家族、肉の仕事、その他、形となつて目の前に広がっているものは、消えては現れ、そして、また消えていくものです。しかし、それを見つめ、それを感じている自分の心の世界は、決して消え去っていくものではありません。

そして、その心の世界は、今、思いを向けていけばいくほど、心

で応えてくれる段階となっています。もう、手を伸ばせば、すぐそこに広がっている世界です。

ほんの少しでも、その世界を感じ、その世界に触れて、それぞれ今世の肉を終えてください。」

母なる宇宙からのメッセージは、これからのことを、しっかりとした波動で伝えてくれています。これから私達が歩んでいく道筋を伝えてくれます。厳しさとともに、「必ず、必ず、戻ってくることを信じて待っています」と伝わってきます。

それぞれの存在の明暗を分けるものは、自分自身です。私は、私を生かすも殺すも、私自身だったことを感じてきました。

意識の世界の法則は、決して曲げられないものです。

私は、今世の肉を通して、そのことを明確に知るに至りました。  
私達は、「愛」ゆえに、意識の世界の法則を侵すことは不可能です。  
法に則り存在します。のつとそして、その法は、少しも窮屈なものではありません。自分を縛るものではありません。法は愛、法は優しさ、  
そして、法は温もりです。

⑮ 人類よ、気付きなさい、目覚めなさい

母なる宇宙からのメッセージは、これから、どんどんどんどん発信されていきます。私は、その意識の流れのど真中にいることを感じます。

先に述べました通り、私は、「私」の存在を知ったから、私は「私」とともに、今世の肉の時間を淡々と過ごし、そして、二五〇年後を待ちます。

二五〇年後の肉を携えて、「私」とともに広げていく人生のドラマは、圧巻だと思います。

私は、二五〇年後、母なる宇宙が、私達を待っていることを、全宇宙へ発信していきます。そのために、私は肉を必要とするのです。地球という星に、その拠点を置き、そこから発信していくのです。私は、UFO達の飛来を感じます。UFO達とともに、次元を超えていくことも感じています。

「ああ、母なる宇宙よ、私達はあなたとともに、三次元から四次元へ移行してまいります。」

私が、ずっと探し求め続けてきた世界が、今、私の心の中で段々に明らかになってきているのです。

「ここに、私は帰りたいかった。」

その思いが、ずっと自分を繋いできたことを感じさせてくれるし、

その思いが、これからの私を導いてくれる手ごたえを、今ずつしりと感じています。

人類に気付きと目覚めを呼び起こすエネルギーが、どんどんどんどん宇宙から流れていることを感じています。

「母なる宇宙とともにⅠ」の冒頭にもありましたように、宇宙とは、遠くにあるものではありません。宇宙は、私達の心の中にある世界です。その世界から、今、どんどんどんエネルギーが放出されています。大いなるパワーの源、大いなる温もりの源、そのエネルギーが宇宙そのもの、私達そのものであることを、これからこの地球上で体験されていくのでしょうか。

## ⑩ ともに歩みを

せつかく、お母さんから肉体をもらってきたのだから、本氣になつて真剣に、そして、もつと大きく広く自分の行く末を思いませんか。

肉のご自分を楽しませること、喜ばせること、仕事や家族を含む肉の生活の中で、元氣に活動されること、それはそれでいいと思います。しかし、そのみでは、何とも残念な人生ということになるかと思っています。

そのような、一過性の楽しみや喜び、生きがいではなくて、もつ

と、奥深い世界に触れられたらと思うばかりです。

お金を信じる人は、いずれお金に裏切られます。あなたの愛する人は、どうでしょうか。

その前に、あなたはご自身を信じていますか。自分を信じられずに、人を愛することなどできないと、私は思っています。自分を肉として見て、相手も肉としてとらえる、その段階でどんなに愛しい思いを抱いた<sup>いだ</sup>としても、その愛は、やがて愛しい人も、そして、あなた自身でさえも、裏切つていく結果となつていくでしょう。その愛はいずれ消え去つていく影だからです。消え去つていく影を悲しんでも、悔やんでも、恨んでも、仕方がないではないですか。固執<sup>こしつ</sup>する思いが苦しみを募らせていくだけです。

それよりも、視点を変えていきましょう。あなたとともに歩む仲間、あなた自身なのではないでしょうか。そして、「あなたは私、私はあなた」を、本当に心から信じ思える意識の存在に気付くことが、あなたの幸せに、そして、喜びに繋がっていくのではないかと思いますか。

あなたに数え切れないほどの肉体を持たせてくれたお母さんの意識は、いつも、いつもあなたに、そのことを伝えてくれていたに違いありません。しかし、あなたは、「私の存在に気付いてください」というメッセージを、繰り返しドブに捨ててきたご自分であつたのです。そのことに、自らの体験を通して、知っていただく下さい。

私もまた、そのような転生を数限りなく繰り返してきた結果を、

自分で受けてまいりました。そして、自らの方向転換を今世、させていただきました。

したがって、その愚劣さも、哀れさも、苦しみも、悲しみも、全部、肉を持てば当然だと感じています。

当然ですが、しかし、それでは何も事は解決しない、事態は前に進んでいかないこともまた、承知しています。

肉からの脱却がない限り、何をどのようにしても、決して地獄から抜け出すことはできないと、心より感じています。

自分自身を地獄から解き放つことを、ただひたすらにしてくださいと思うだけです。

「ともに歩んでいきたい」、あなたの地獄の奥底の声が、私には感

じられるからです。しかし、それはあなた自身に意識の変革がなければ、どうしようもないのです。

私は、その意識達に、これからどんどん呼びかけていくつもりです。宇宙へ発信する思いと、宇宙から発信される思いとが、ともに歩みを進めていく方向に、これからなっていくことを、お伝えしておきます。天変地異という形で、そのメッセージを、お伝えしていきます。

## 終わりに

二五〇年後の来世やUFOの話など、荒唐無稽こうとうむけいな話だと、お笑いになられるかもしれません。それを証明し、信じるに値する資料など、どこを探しても見つかりません。

それよりも、これから景気はどうなるのか、少子高齢化社会の将来はいかにとか、もっと身近なところでは、今晚のおかずは何かというほうが、現実味があります。

しかし、あなたが、今、肉眼と、心の目の両方の目を兼ね備えていたとしたならば、決してそうは思わないはず、思えないはずです。

肉眼を通して得る世界は、確かに、今、現実です。しかし、それは、心の目を通して感じていく世界の現実には、及びもしないことだとなっていくと思います。

今は、日々の暮らしに沿ったハウツーものばかりが、もてはやされていますが、それでは対処し切れなくなってくる時が、間近にやってくると思います。外に求めてきた情報など、何の役にも立たない、何の値打ちもないと思う時が、やがてやってくるでしょう。それは、「私が今、知りたいものはそんなものではない」と、心から叫び出したくなる状況です。

今現在、それぞれの環境の中で、様々な悩みや苦しみを抱えておられると思いますが、これから遭遇する出来事は、その程度のもの

ではないことを、ここでお伝えしておきます。

あなたの外から、そして、中から、異変が突き上げてくるのです。あなたの身体がバラバラになつて飛んでいくほどの衝撃を、あなたの心（意識）は受けていかれるだろうと思います。身体を突き抜けていく衝撃は、今までの自分の生き方の方向を変えざるを得ないほどのものだと思います。

あなたのその目を通し、耳を通し、そして、身体全体で受けていく衝撃は、想像を絶するものということになります。それほどのものを受けていけない限り、人間の思い、意識は変えることはできないのです。

その体験を基に、それから後の自分の進むべき方向を、それぞれ

が自分で選択し、それを速やかに遂行していくのだと思います。

私達とともに次元移行するのか、そうでないのか、すべては自分の意識の世界が最高責任者であるのです。

私は、今、しっかりと足取りで自分の歩むべき方向に歩んでいます。そのことを、このような形で表現させていただけることも喜びですし、何より、私自身、喜びと幸せの中にあることを、幾度となく感じています。

また、ともに歩むことは、確かに喜びではありますが、それは強制するものではありません。強制されて、そして、強迫観念から、自分を曲げることはあってはならないのです。そのようなことをしても、全く徒労でしかありません。

それぞれの意思決定が必要です。強い意志のもとに、何が本当に自分を奮い立たせていくのか、自分の中で、きちんと見つめていくことが、最も大切なことだと、私は感じています。あなた自身の心で感じ、あなた自身の心で答えてくれている思いに、ひたすら真摯しんしな思いを傾けて、これからも存在していくことに尽きると思います。本書を理解するための読解力は、一切問いません。言葉や文章表現ではなくて、行間からにじみ出てくる思いを感じ取ってくださいと願うばかりです。

最後に、「人として、肉を持たせていただいた意識として、今ある時間を大切に、自分をこよなく愛すること、それだけが望まれていることです」という言葉で、本書を締めくくります。

**塩川香世**（しおかわかよ）

1959 年 3 月大阪市に生まれる。

1991 年 3 月税理士登録。

税務関係業務に従事、現在に至る。

著書／「ありがとう」意識の流れ姉妹編

「母なる宇宙とともに」Ⅰ

**「母なる宇宙とともに Ⅱ」**

初版発行 2007 年 4 月 30 日

|                                     |   |                   |
|-------------------------------------|---|-------------------|
| 著                                   | 者 | 塩川 香世             |
| 発                                   | 行 | 者 桐生 敏明           |
| 発                                   | 行 | 株式会社 かんぼうサービス     |
| 装                                   | 丁 | 仁井谷 伴子            |
| 発                                   | 売 | 元 <b>株式会社かんぼう</b> |
| 大阪市西区江戸堀 1 丁目 2 番 14 号              |   |                   |
| TEL 06-6443-2171 / FAX 06-6443-2175 |   |                   |

印刷・製本 モリモト印刷株式会社

© Kayo Shiokawa, Printed in Japan 2007